

「小笠原諸島の世界自然遺産としての価値について」に対して頂いた意見等及び対応案について

意見・指摘等の()内は、ヒアリング等を通じて、事務局として必要と判断した事項

	意見・指摘等	対応案
1. 物件の説明	「Udvardyの生物地理区分」について説明が必要	補足資料に「 Udvardyの生物地理区分」を追加
	(気候の概要について追加)	「父島での年平均気温23.0、冬期間でも平均気温は18.7 であり、年間を通じて温暖である。年間降水量は1,280mmで、5月と11月に多い傾向になっている。」を追加
	小笠原には江戸時代まで人の入植がなく、それまでは攪乱を受けていなかったという記述を追加すべき	「小笠原諸島には1830年まで定住者はおらず、「無人島(ボニン・アイランド)」と呼ばれていた。近年まで無人島であったために海洋島の生態系が良く保存されている。」を追加
	小笠原の形成時期のを約4,800万年～約4,400万年前と記述すべき	「約4800-4400万年前」に修文
	「種の起源が古く…」という表現は、「島への由来が古く…」の方がよい。	指摘のとおり修文
	「独自の種分化を起こし、…種分化の過程を見ることが…」は、「独自の進化を起こし、…進化の過程を見ることが…」の方が自然	指摘のとおり修文
2. 顕著で普遍的な価値の証明		
( )地形地質	(海野委員提示の「価値の陳述案」(第1回科学委員会資料2-7)を参考とする)	海野委員の価値の陳述案を参考に全体を見直し、整理
	(ボニナイトの特徴を追加)	「ボニナイトは、地球上で唯一単斜エンスタイトを含む高マグネシウムの安山岩である。」を追加
	聳島列島を、父島列島と並んで記述すべき	指摘のとおり修文
	(海洋性島弧の形成過程がまとまった規模で陸上に露出している理由を説明)	「これは、太平洋プレート上にある海底火山が、フィリピン海プレートに衝突し、その一部を隆起させたためである。」を追加
( )生態系	今なお進行中の種分化が見られるのは乾性低木林だけではないので、単に植物とした方がよい。	指摘のとおり修文

	乾性低木林の範囲について整理が必要	乾性低木林を、「コバナアカテツ-シマイスノキ群集」、「ムニンヒメツバキ-コブガシ群集オガサワラモクレイシ亜群集シマイスノキ変群集」、「岩上荒原植物群落」と整理し、補足資料に「乾性低木林」を追加
	「流れ着き…」という表現は、鳥が運んだものもあるため、「運ばれて…」とした方がよい	指摘のとおり修文
	「ただし、大陸で優占するシイ・カシ類を欠くため、その種組成は独特の内容となっている。」を追加すべき	指摘のとおり修文
	昆虫類の固有種についても例示してはどうか。	「昆虫類では、オガサワラカミキリ類やヒメカタゾウムシ類などで進化の過程についての研究が進められている。」を追加し、あわせて補足資料を追加
	ヒメカタゾウムシ類は、属島固有種が11種も見られ、価値証明の材料に使えるのではないかと九州大学森本先生より、来年論文が出る予定とうかがっている。	
( )生物多様性	「ポリネシア系」よりも「大洋州系」の方が良いのではないかと。	ここでは小笠原植物図譜(増補改訂版)(豊田 武司編、2003.2)に記載されているポリネシア系という用語を使用しているが、近縁種の分布は、ハワイ諸島やメラネシア(フィジー等)、マイクロネシアも一部含んでいる。
	固有種率及び固有種数に草本は含まれるのか	乾性低木林を、「コバナアカテツ-シマイスノキ群集」、「ムニンヒメツバキ-コブガシ群集オガサワラモクレイシ亜群集シマイスノキ変群集」、「岩上荒原植物群落」と整理し、草本を含めて種数を再整理 「乾性低木林を構成する植物では69種の固有種が確認されており、固有種率は67%(木本のみでは81%)である。」に修文
	オガサワラオオコウモリが例示されているが、生息地が国立公園区域外であり国有林外でもある。天然記念物ではあるが、これで完全性は十分といえるのか。暫定リストに例示する種として相応しいのか否か疑問である。オオコウモリだけでなく、ここに記載されている55種の生息地の担保性を確保する必要はないのか。	個別の種の保護については、暫定リスト提出後に検討頂く管理計画の中で検討が必要だと認識。オガサワラオオコウモリについては、小笠原諸島唯一の哺乳類であり、代表性が高いことから記述したい
	オガサワラオオコウモリやアホウドリを抜いてしまうと、アイコン種(フラグシップ種)がいなくなってしまうのではないかと。	アホウドリのために鳥島を入れた場合と、地形・地質や生態系の価値の説明についてまとまりを欠くおそれがある。また、アホウドリ類の繁殖地として登録された自然遺産が既にあることから、アホウドリの繁殖地として生物多様性を説明するのも困難と認識しており、鳥島は除いて検討したい 例示する種は、唯一の哺乳類であるオガサワラオオコウモリ(CR)、固有鳥類であり海洋島での進化を代表する種としてメグロ(VU)、固有属であるシマアカネ(CR)としたい
	海鳥類17種とあるが、絶滅種や鳥島、中硫黄島を除くと、正確には14種である。	指摘を踏まえ、アホウドリ類とその他の海鳥類を分ける形で記載

3. 真正性または完全性	法制度の記述だけでなく、知床のように、生態系の記述もする方がよい。	「小笠原諸島は、海洋性島弧の形成過程をその誕生から幼年期を経て現在進行中の青年期まで観察できるとともに、海洋島の進化の過程を良く保存し、世界的に重要な絶滅のおそれのある種の生育・生息地となっている。」を追加
	鳥獣保護区や保安林も入れた方がよい。	「国指定鳥獣保護区」を追加。保安林については、天然保護区域と同様に「等」に含めたい
4. 他の類似物件との比較	(海野委員提示の「価値の陳述案」(第1回科学委員会資料2-7)を参考とする)	「海洋性島弧の誕生と無人岩の発生は、地球史上において幾度となく繰り返されてきた普遍的な現象であるが、その多くは地殻変動によって破壊され、断片的な記録しか残されていない。しかし、伊豆 - 小笠原 - マリアナ弧では2500 kmにも及ぶ長大な海溝に沿って無人岩海底火山が地殻変動による破壊を受けることなく保存されている。残念ながら、そのほとんどは容易に人が近づくことを許さない3000mを超える深海にある。唯一小笠原諸島のみが、無人岩に代表される海洋性島弧の誕生から青年期に至る成長過程を陸上で目の当たりにすることができる世界最大の模式地である。」に修文
	「種の起源が古く…」という表現は、「島への由来が古く…」の方がよい。	指摘のとおり修文
	(最後に結論が必要)	「以上のように、小笠原諸島と同様の価値を有する地域は他に存在しない。」を追加